

## 県央構想区域の状況（平成30年度）

### 具体的対応方針

1 役割（・・・特に地域において担うべき役割、・・・地域において担うべき役割）

		がん	脳卒中	心疾患疾病		糖尿病	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	議論の状況
				急性期	回復期								
長崎医療センター	2018												協議済
	2025												
長崎川棚医療センター	2018												協議済
	2025												
諫早総合病院	2018												協議済
	2025												
長崎原爆諫早病院	2018												協議済
	2025												
大村市民病院	2018												協議済
	2025												

2 病床数（2017年・平成29年度病床機能報告(平成29年7月1日時点)、2025年・公的医療機関等2025プラン）

		病床機能							議論の状況
		合計	高度	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	介護等	
長崎医療センター	2017	610	278	332					協議済
	2025	610	278	332					
長崎川棚医療センター	2017	280		179	41	60			協議済
	2025	280		165	55	60			
諫早総合病院	2017	315	8	307					協議済
	2025	315	8	307					
長崎原爆諫早病院	2017	111		72	39				協議済
	2025	111		59	52				
大村市民病院	2017	212	8	106	98				協議済
	2025	212	8	106	98				

#### 【共通項目】

今後も2025年に向け、「公的医療機関等2025プラン」内の具体的な対応方針については、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。

この際、将来の病床数の必要量を見極めながら、公的医療機関等と民間医療機関の役割分担について、公的医療機関等でなければ担えない分野に重点化されているか確認するものとする。

なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取り組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。

（協議事項）

- ・公的医療機関等と民間医療機関の役割分担（医療機能の変更等）
- ・将来の病床数の必要量を踏まえた取り組み
- ・非稼働病棟の取り組み

各医療機関のプランの主な記載内容（抜粋概要版）平成31年3月時点

【県央区域】

病院名	自施設の現状	自施設の課題	今後の方針	具体的な計画 （4機能の病床のあり方） 【一般病床＋療養病床】				
				地域において今後担うべき役割		H28報告	→	2025
長崎医療センター	がん：県央地域の唯一のがん診療拠点病院（小児がん除く） 脳卒中：県央地域の高次脳卒中センターとして、地域の中心的役割 急性心筋梗塞：急性心筋梗塞における当院のシェア高い。 糖尿病：特に糖尿病を合併している患者の入院診療を実施 救急医療：地域唯一の救命救急センター（ドクターヘリ基幹施設） 県央地域のみならず県南地域の救急医療も担っている。 周産期医療：全県域から患者を受け入れ（総合周産期母子医療C） 小児医療：救命救急センターを有し、24時間365日対応。	・高度急性期、急性期医療については、十分な対応できている。 ・地域の回復期病床の不足による転院調整等に苦慮しているため、今後地域の医療機関との連携によって、スムーズな転院調整を行っていくことが課題。	・5疾病・5事業における高度急性期および急性期医療分野を中心に担っていくため、高度急性期病床および急性期病床を継続する。	高度	278	現状維持	高度	278
				急性	332		急性	332
				回復	-		回復	-
				慢性	-		慢性	-
長崎川棚医療センター	地域医療支援病院：地域の中で唯一の基幹病院 地域脳卒中センター：脳卒中急性期機能を概ね満たす医療機関 難病医療：長崎県難病支援ネットワークの神経難病患者の拠点病院 地域包括ケアの取組み：平成27年8月「地域包括ケア病棟」を開設 セーフティネット：筋ジストロフィー患者、神経難病患者及び結核患者を長崎県全域から受け入れ 神経・筋疾患政策医療ネットワーク：九州地区の基幹医療施設 結核医療：県央医療圏の結核拠点病院 平成29年7月の新病棟移転の際に、急性期病床の14床減床、回復期病床の14床増床を実施。	・地域完結型医療の実現には、急性期から回復期そして在宅への緊密な連携が重要であり、救急医療体制の充実、地域の医療機関と連携し、転換した回復期機能病床を適切に運用していくことが課題。	・脳卒中の対応を中心とした急性期機能の提供を維持。 ・地域医療支援病院として地域の救急医療の充実を図る。 ・長崎DMAT指定病院、初期被ばく医療機関として、今後ドクターヘリの受入開始等の充実を図る。 ・在宅患者の緊急時受け入れの拡大を図り、回復期機能の提供を維持。 ・筋ジストロフィーを含む神経筋難病医療は、県内から広く患者を受け入れており慢性期機能を維持。 ・訪問看護ステーションの運営により、急性期から在宅まで切れ目のない医療を提供し、地域包括ケアシステムの中核を担う。	高度	-	変更済	高度	-
				急性	179		急性	165
				回復	41		回復	55
				慢性	60		慢性	60
諫早総合病院	・提供医療：救急医療、災害医療、小児医療 ・急性期病院として救急医療を担っているが、近隣の医療機関は、救急医療体制が整っていないため、週4日の輪番を受け持っている。 ・在宅医療需要は今後増加していくが、自院は救急医療を担う病院として確立していく。	・県央地域では、近隣の医療機関の救急医療体制の確保が厳しい状況になっている。 ・当院は急性期病院として、他の医療機関で担うことができない部分の救急医療体制を確立していくことが必要。	・県央区域の中心に位置し、「救急告示病院」や「地域医療支援病院」、「長崎県指定がん診療連携推進病院」等の指定を受けており、県央区域の中核病院として安全・安心な医療・看護の提供を目指す。 ・今後も現状の役割を担い、回復期医療機関や介護施設等との更なる連携体制の強化を図り、地域医療を支えていく。 ・脳外科も新設するため、今後更に幅広い医療を提供するため、急性期医療体制を維持していく。	高度	8	現状維持	高度	8
				急性	307		急性	307
				回復	-		回復	-
				慢性	-		慢性	-
長崎原爆諫早病院	呼吸器科：県央・県南区域の結核・肺炎患者を受け入れ 消化器科：肝疾患専門医療機関、抗ウイルス剤併用療法可能施設として、肝臓専門医療機関の認知度も高まっている。 糖尿病診療：近隣の医療機関からの教育入院だけの受入も実施 訪問看護ステーション：在宅医療等のニーズに対応するため、24時間体制で運用している。 地域包括ケア：今後回復期病床等の不足見込まれるため、急性期病床100床を59床（人間ドック8床含む）に減床し、地域包括ケア病床12床を52床に拡充。 県央区域には、長崎医療センターとJCH O諫早総合病院が立地し、高度急性期と急性期医療体制は充実	・現在、常勤医師9名で救急医療に対応しているが、平均年齢が55歳を超えて、その負担が非常に大きく対応が困難となりつつある。 ・当院の建物は、築34年経過しており、施設・設備の老朽化等による維持管理費用の増加が著しい状況。このため、病院建替を含め、将来の施設・設備の整備について、今後、具体的に検討を始める必要がある。	・引き続き現在の体制を維持しつつ、在宅医療等の今後不足が見込まれる医療需要の分野に対して、機動的に機能強化を図りながら、県央区域における当院のポジションの確立を目指す。 ・結核医療については、当院が本県の結核医療の中心的な役割を担っているため、引き続き維持する。 ・被爆者医療についても、当院の基本方針のとおり、被爆者の健康管理と診療の充実に努めていく。	高度	-	変更済	高度	-
				急性	112		急性	59
				回復	-		回復	52
				慢性	-		慢性	-
大村市民病院	当院の特徴：高度急性期から回復期まで切れ目のない医療を提供 当院が担う医療（5疾病）：がん・急性心筋梗塞の治療を重点 当院が担う医療（5事業）：救急医療、へき地医療 他機関との連携：2次医療は当院、3次医療は長崎医療センターと住み分けが構築されており、必要に応じて紹介、逆紹介を実施。 平成29年4月の新病院開院に伴い、休床していた72床を廃止すると共に、回復期病床（リハ及び地域包括ケア）10床を増床。	・在宅療養後方支援病院として、入院における地域包括ケアシステムの役割分担を果たしていく必要。 ・2次救急指定病院として市民に何時でも安心な医療を提供できる体制を維持。	・地域の柱となっている心臓血管・循環器疾患への対応を中心とした高度急性期・急性期医療の提供体制を維持。 ・地域の包括ケアシステムの入院医療機関として行政と連携。 ・県央地域で唯一感染症病床（4床）保有しているため、感染症を熟知した医師及び感染管理認定看護師を配置していることから、平成29年に感染症内科を標榜した。 ・空港に近いため、新型インフルエンザ患者等を受け入れる可能性があり、関係機関と連携して対応していく。	高度	8	現状維持	高度	8
				急性	106		急性	106
				回復	98		回復	98
				慢性	-		慢性	-